「第９回専門員会」に関する傍聴者の御意見と傍聴者の質問に対する回答など

氏　　名	御　　意　　見	質問に対する回答など
1　平光 文男	・利水や費用負担などは、20 年前から言われていることが、変わりなく、その話、法律的、市民を交えた議論の結果行われてきた事業について、今の段階で何の根拠を持って、議論されるのか、不思議。 ・本委員会で、論ずるものとはちがうのではないか、つまり開門調査とのからみがわからない。 ・水がとまっていると言うのは、計算上の空論である。代替水源となれば水利権をすべて見直すこととなり、運用や費用は不可能な現象が表われる。 ・塩水遡上については、調査の方法、根拠を理解されなく、絵を見たことのみで全体を議論するのは時間の浪費である。 ・開門調査の結果被害に対する責任を取れないような委員会の結論は、実施する者が居るのか、理解できない。河口堰の是非は、委員会の主旨から外れている。	
２柳川　晃	・本日最初に挙手して発言した者の意見・確認です、下記のとおり。 (駒田前名古屋女子大学教授とは知り合い) ① 魚類については、魚類の専門家による議論や検討のないまま、諸々の資料の原本作成者の意図に反した使用をされている。当該専門委員会にきちんと魚類専門家を呼び議論する時間をとり、考察を修正すべきと考える。 (この専門委員会には魚類専門家はいないと考える) ② 魚類の調査結果や考察は、木曽三川のそれぞれの河川毎の調査データを比較した上で考察すべき。あまりに長良川のみの限られた調査結果に基づいて考察されてはいないか。 ③ 魚類調査データの使用に当っては、今後活字となり公表されていくため、正しく調査データの理解をした上で、著者の理解も得られた、資料の転載をすべき。 (今回駒田氏資料については、当人より無断転載とお聞きしている。本人の意思と違う使われ方をしている場合は十分な意見交換と議論が必要と思います) ④ 使用されている文献の全体の資料がＨＰ等で見れないのは、使われているデータや調査研究成果の著者の考察が理解できなく、今回報告書の中で使用されている意味の解釈上一般に広く開かれた手法ではないのではないか。是非研究者の了解の上で公開し、閲覧できるようにすべきと考えます。 以上	
3　石黒 鐐三	事務局　　御中 毎度お世話になってありがとうございます。 中日新聞しか読んでいませんが最近は一寸大きく報道される事もあり多くの皆さんに関心を持たれる多くの色々な意見提言がなされるといいなと思ってます。 別紙にて私の考えを述べさせて頂きます。 文筆が下手な事大変申し訳なく思ってますがお許しください。 第９回専門委員会に関する意見 木曽三川フォーラム所属　　石黒鐐三 塩害関係　　議論が白熱しました。私も調査方法・結果データなど不可解な点が多いと思います。塩害を推測しての資料集めのように感じました。 マウンドの有無に関係なくミオ筋を昇って仕乍ら、マウンドが塩を止めているとも言う。 実害が発生したのはいつどこでどの程度でその時塩は上に覆ったのか土壌から浸透したのかの記録の有無はどうか、科学的観測資料からの推定被害予想と思われる。ならばそれを越える様な事態になった時は天災とし、誰が責任を負うかと言うことでないと思う。 ２５㎞・３０㎞ 上流迄塩害がおよぶ(例え塩が上っても実際は害が発生してないと思う)ならもっと下流で昔からの農工法で汐止めの堰が作られてたと思う。開放調査項目のアイテムに春の大潮干潮時にその跡地調査を入れた検証でありたい。	

	輪中のなかに消えた高額な費用も項目は塩害対策と仕乍ら、土地改良・水路整備・その他色々な項目を立ち上げその各々の起工・完成ごとに記念事業や会合費・補助金・支援金・補償費・助成活動等々の目名に消えたと思えてなりません。 取水方法の改善提案として、大型フロートに取水ポンプ(現有品)をフロート中央に開口部を設けそこから水面直近で取水すればより塩分の少い水がとれて、可動管を現稼働中の送水設備に接続すればクリアーできると思うし、それでも塩分を嫌う企業はうすくなった塩分を自前で除去されたい。 検証期間関係　　予備調査と本調査について線引きが議論されたが、私は一度委員の皆さんが現場を各々ゆっくり視察した後調査目的・項目・方法・調査過程での対処方法等々を情報を共有仕乍ら内容をしっかりつめられる作業を予備調査でないかと思います。 そして本調査には１～２年の期間は今現在１６年間に留った色々なものを、堰建設以前の状態に戻すためのバージする期間とします。この間にも変化を調査記録に残し、一部を活用その後３～５年間を開放し長良川が以前の自然なすがたであった時の様子を知り、結果をもとにその後を判断する。 利水関係　　堰建設時の設定水量が過大か？その後の企業の節水対策結果なのかとなれば両方あると思う。水余りは工業水に限らず実際は農業用水の方が余ってると思う。一度正確な水量を把握する必要がある。弥富市中原町や境町辺りで同川経由海へ放出されてる水量は大量であり何んのためか判らない。判明した余剰水を環境用水や観光・景観・遊び用水と言った従来にない観点にそった新しい水利用を開拓し、安価に供給、少しでも建設費の補填にあてたい。 ダム水関係　　岩屋ダムはじめ多くの中小の古いダムが堆積土砂で実効水量が減少しているとのこと、一方で徳山ダム水や大野町地域での自噴水増加の問題これらも余剰水と捉えてこれの活用を考えるなら揖斐川を介して安八・海津両郡の農・工・上水用に墨俣辺りで取水してはどうか。福原・長島へも届けれると思います。その分は河口堰による淡水づくりの負荷を少なくする事で長良川をより健全な状況に向わせると思いますし、北伊勢工水や中勢上水だって揖斐川の南濃町辺りで取水してはどうでしょうか。 以上	